

通し番号	4 4 3 2
------	---------

分類番号	21-24-16-02
------	-------------

(成果情報名) 三浦半島の秋まき5月どり栽培における加工・業務用寒玉系キャベツの有望品種の特性
[要約]三浦半島において、加工・業務向けで端境期となる4～5月どりの寒玉系キャベツは、中早生タイプの寒玉系品種を秋まき栽培して5月を中心に生産・出荷される。この作型には、肥大性や歩留まりのよい‘かんろく（秋まき早生寒玉6号）’、‘さつき女王’、‘来喜’、‘さつき王’、‘KA796 (N0553)’が適する。なお、‘さつき女王’は比較的耐裂球性にも優れる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・三浦半島地区事務所研究課 連絡先 046-888-3385

#### [背景・ねらい]

近年、食の外部化等で需要が伸びている加工・業務向けキャベツには、葉質や結球が硬く、加工歩留まりのよい寒玉系が求められている。しかしながら、寒玉系キャベツは、抽苔や不結球等の問題から4～5月の生産が難しいため、愛知産の冬どり寒玉系貯蔵キャベツや中国産の輸入寒玉系キャベツが流通している。そこで、国産キャベツに対するニーズの高まりを背景に新たに育成された品種の中から夏まきで抽苔や不結球が回避でき、在圃性や収量性などの面から、三浦半島における4月どり加工・業務用キャベツの有望な品種及び作型を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 抽苔せず、肥大性がよい5月どり可能な寒玉系品種として、‘かんろく（秋まき早生寒玉6号）’、‘さつき女王’、‘来喜’、‘さつき王’、‘KA796 (N0553)’が有望である（表1）。
- 2 暖冬年（H18、H20）では4月下旬から収穫が始まり、寒冬年（H19）では5月上旬から収穫が開始する。‘さつき女王’は他4品種に比べ収穫時期が1週間程度遅くなる（表2）。
- 3 中早生品種の特性や結球肥大期の温度条件等から、いずれの品種とも裂球しやすいが、2L規格での裂球発生率は‘さつき女王’が特に低く、耐裂球性は高い（表3）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 裂球のため収穫適期が短いことから、5月上～下旬まで連続出荷するには、早晚性の異なる複数品種を組み合わせる栽培するか、播種時期をずらすことにより対応する（表2、表3）。
- 2 気象条件等によっては、球内部のチップバーンや結球葉の腐敗・ムレを生じる。

[具体的データ]

表1 秋まき5月どりに適する寒玉系キャベツ品種の特性及び収量性 (H20)

品種	株張 (cm)	結球重 (g)	外葉重 (g/枚)	球形指数 <sup>z</sup>	結球緊度 <sup>y</sup> (g/cm <sup>3</sup> )	芯重/結球重 (%)	抽苔程度 <sup>x</sup>	裂球発生率 <sup>w</sup> (%)	収量 <sup>v</sup> (t/10a)
さつき王	55	1,473	71	0.76	0.65	5.7	1.0	10	8.64
さつき女王	47	1,275	63	0.79	0.59	5.7	1.5	0	7.39
かんろく (寒玉6号)	58	1,432	80	0.73	0.58	5.2	1.0	35	8.40
KA796 (N0553)	46	1,192	55	0.75	0.61	3.7	0.4	45	7.08
来喜	53	1,369	71	0.78	0.59	5.7	1.0	30	8.13

播種：平成20年10月18日、栽植密度：51×33cm (5,941株/10a)。<sup>z</sup>球形指数=球高/球径。<sup>y</sup>結球緊度=結球重/(1/6×π×球径×球径×球高)。<sup>x</sup>縦断面の目視により、0：頂花蕾が確認できない、1：頂花蕾確認、2：頂花蕾伸長初期(脇芽確認)、3：頂花蕾伸長(脇芽の肥大)、4：頂花蕾伸長甚大(球内抽苔)の5段階で評価(抽苔程度3に達するまでは出荷可能と想定)。<sup>w</sup>裂球発生率には裂皮を含む。<sup>v</sup>収量(t/10a)=結球重×栽植株数×(100-欠株率)

表2 各品種の収穫時期 (H18-H20)

品種	収穫期間			5割収穫期 <sup>z</sup>		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20
さつき王	4/25-5/16	5/6-5/12	4/27-5/14	5月2日	5月8日	5月1日
さつき女王	5/8-6/6	5/12-5/23	4/22-5/14	5月23日	5月23日	5月7日
かんろく (寒玉6号)	—	5/8-5/16	4/22-5/7	—	5月12日	5月1日
KA796 (N0553)	—	5/8-5/23	4/22-5/7	—	5月12日	5月1日
来喜	—	—	4/22-5/14	—	—	5月1日

<sup>z</sup>延べ収穫個数が全体の5割に達した日

表3 各品種の裂球<sup>z</sup>の規格別、時期別発生割合 (H19、H20)

	年度	規格別裂球割合(%) <sup>y</sup>				時期別裂球割合(%)				
		M以下	L	2L	3L以上	4月28日	5月13日	5月19日	5月23日	5月27日
さつき王	H20	0	18	40	50	4	63	100	—	100
	H19	—	—	8	32	—	—	—	76	—
さつき女王	H20	7	10	14	0	0	0	13	—	50
	H19	—	11	8	0	—	—	—	9	—
かんろく (寒玉6号)	H20	8	30	35	63	0	46	83	—	83
	H19	0	12	15	—	—	—	—	26	—
KA796 (N0553)	H20	48	35	52	—	0	4	38	—	58
	H19	0	17	31	0	—	—	—	50	—
来喜	H20	0	20	50	50	0	63	83	—	96

<sup>z</sup>裂球には裂皮を含む。<sup>y</sup>品種により収穫開始日は異なる(表2参照)。

[資料名]農水省加工プロジェクト試験研究成績書(平成18~21年度)

青果物カット事業協議会研究報告書(平成18、19年度)

[研究課題名]園芸作物等の栽培技術に関する研究開発

春キャベツにおける業務用高品質品種を用いた定量・定時・定質生産技術の開発

[研究期間]平成18~22年度

[研究者担当名]高田敦之・太田和宏・北浦健生・北宜裕